

第30回 全国豊かな海づくり大会
市制60周年（合併5周年）記念

ぎふ長良川大会開催記念

企画展 『あゆみ』

『櫻』

篠田桃紅にとって幼い頃の墨との出会い、それは表現との出会いでもありました。時とともに桃紅の表現は文字から抽象へと移行しますが、墨との関係は変わらず、戦後1956年には、日本の墨による抽象画の先駆的な存在として渡米も果たします。帰国後は、国内外で多くの個展を開催し、またさまざまな企画展に参加するなど、精力的に作品の発表も行ってきました。

現によつて覆われ、文字の意味を超え、見る者の想像をかき立てます。暖かな陽気に誘われてほころぶ蕾。枝いつぱいに咲き誇る満開の桜の木。はかなく散つてゆく花。「櫻」という文字を知る人であれば、だれもがそれぞれの「櫻」のイメージを持っています。作品「櫻」は、そんな見る人の経験や感覚、感情によつて変化する、新しい文字のかたちなのかもしれません。



図版掲載「櫻」1993年 和紙、墨、朱

- 企画展会期…4月6日(火)～6月27日(日)
- 入館料…高校生以上300円、中学生以下無料
- 休館日…月曜日(休日を除く)、祝日の翌日(土・日・休日を除く)
- 開館時間…午前9時～午後4時30分
- 関連イベント…作品鑑賞会
4月10日(土)、5月8日(土)
午後1時30分～2時30分 申し込み不要
- 照会先…篠田桃紅美術空間
(市役所7階) ☎23-7756

【臨時休館日のお知らせ】

作品入替作業のため、3月29日(月)から4月5日(月)まで休館します。

また「第30回全国豊かな海づくり大会」開催に伴い、6月12日(土)・13日(日)は休館します。

ひとひと 女と男

ともに自分らしく生きよう vol. 68

「さんかくの木」

男女共同参画社会

このコーナーでは、葉に書かれた内容をさんかくサポーターが紹介していきます。

「これからの時代はパパも料理や育児、ママも外でいきいきと仕事ですね」

男女共同参画の先進国といわれる北欧諸国では、育児についても男性の参画を促進する取組が行われています。ノルウェーでは、両親が育児休業を合わせて最長3年間(うち1年間は有給)取得できますが、この有給の1年間のうち、父親に一定の休業期間を割り当てる「パパ・クォータ」を設けています。この国では、女性のほとんどが仕事についていますので、育児休業制度は早くから制度化されていました。母親・父親どちらも取得可能でしたが、育児休暇を取得するのは女性が多く、出生率も低下していました。そこで、父親にも育児の役割を果たしてもらおう、育児の喜びを感じてもらおうということで、この制度が導入されたのです。1993年に導入されて以降、父親の育児休業取得率は約90%に達し、出生率も増加しました。

一方、日本では、育児休業法が1992年4月に施行されました。男性も取得可能ですが、男性の育児休業取得率は2003年の厚生労働省調べで0.44%という実情です。

厚生労働白書でも父親の育児参加を促していますが、育児は女性の役割という意識が強く、男性が職場で育児休業を取得したいと主張する雰囲気はまだ無なのが現状です。

少子化の流れを止めるには、制度のあり方だけでなく、「父親が育児にどれだけ参画しているか」も重要なポイントとなりそうです。父親の育児が「日常の風景」になるといいですね。さんかくサポーター<E>



◀わかさぎプラザ「学習情報館2階」男女共同参画コーナーでご覧になれます。

<照会先> さんかくサポーター事務局 (まちづくり推進課内) ☎23-7711